

Winter Challenge 2007

Winter Challenge WG長 マテリアル工学科 安藤新二

1. 緒言

Winter Challenge はもの・クリ Challenge に引きつづき、学生の自主的なものづくり活動として実施した。もの・クリ Challenge は「アイデア部門」と「製作部門」の2つで実施したが、この Winter Challenge は具体的なものづくりを主題として実施した。前回と同様に、募集テーマを設定し、本年度は以下のテーマとした。

募集テーマ：「あかり」

日々の生活に彩りを添える「あかり」を考える。「あかり」から放たれる「ひかり」によって、日常的なにげない「空間」やある「瞬間」に楽しみや幸せ、興奮を感じるようなちょっとした仕掛けを考え、形(もの)にする。



図1 作品募集ポスター

また参加者には、作品製作費として1件につき2万円まで補助することとした。

2. 実施概要

実施スケジュールは以下のとおりである。

- 1月11日 ポスター配付、受付開始
- 1月31日 参加申込締切(2月19日まで延長)
- 2月28日 16:00- 作品受付 211 教室
- 3月1日 10:00-14:00 1次審査開始
14:30 1次審査結果発表
- 3月2日 10:10-10:55 最終審査会 211 教室
(ものづくり教育授業改善成果報告会と併催)
12:00 審査結果発表および表彰式

今回の応募件数は合計 20 件で、内訳は、物質生命化学科 2 件、マテリアル工学科、知能生産マテリアル系計 14 件、知能生産機械系 3 件、数理情報システム 1 件であった。

昨年度は、審査会を4月に実施したため作品を学生や教職員に公開する期間を十分に取れなかったため、本年度はスケジュールを早め、また1次審査を公開形式による投票方式とした。会場は2号館1階ロビーで実施し、審査委員(ものづくり委員会委員)3票、一般審査委員(教職員および学生)1票で評価した。審査委員12名、一般審査委員171名で投票した結果、上位5作品を選出した。



図2 2号館ロビーにおける1次審査会の様子

これらの5作品については、最終審査会において1作品約10分のプレゼンテーションおよび質疑を行い審査員(11名)により評価した。評価項目は以下の通りである。

- ・作品製作目的・着眼点
- ・アイデア・独創性
- ・作品の完成度・製作技術
- ・作品説明の判りやすさ

について各5点満点で評価し合計点で順位づけした。この内、総合計の最も高いものを最優秀賞(1件)、最優秀賞を除いたうち、「着眼点+独創性」の得点の最も高いもの、および製作技術の得点の最も高いものを優秀賞(各1件)選出し、残りは入賞とした。入選

作品は以下の通りである。

- ・最優秀賞 「グルグルアース」
代表 数理情報システム工学科 3年 岩丸晃大
 - ・優秀賞（製作技術）「木漏れ灯」
代表 物質生命化学科 4年 熊丸 薫
 - ・優秀賞（独創性）「化学 de ランプ～あかり de 癒やし～」 代表 物質生命化学科 4年 飯野 久朗
 - ・入賞 「星時計」
代表 知能生産システム工学科マテリアル系
2年 木下 優
 - ・入賞 「flower」
マテリアル工学科 1年 吉元 さゆり
- 入選作品には賞状と、以下の副賞を授与した。
- 最優秀賞 スケッチブック大+ペン
 - 優秀賞 スケッチブック小+ペン
 - 入賞 ペン

3. 改善点および検討課題

改善された点として、審査会を3月初旬に実施できたこと、また公開形式としたことから、多くの学生や教職員への認知度が高まった。また1次審査会において、参加した学生同士で、作品製作に関して意見交換を行っている様子が見られた点は良い点と思われる。

検討課題としては、参加件数が20件と昨年より若干減っており、また参加学科に偏りがあった。これはテーマ発表から作品締切までの期間が短かったため、学科によっては製作時間が取りづらいために参加できなかったのではないかと考えられる。

このような作品製作には、時間を要することから、ものクリ Challenge も含めて、構想を練ったり製作する時間を十分取れるようなスケジュールを考える必要があると言える。



図5 優秀賞「化学 de ランプ～あかり de 癒やし～」

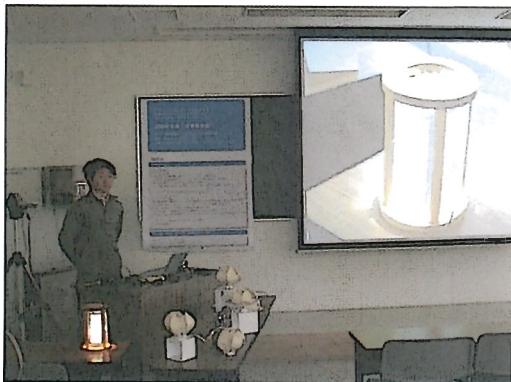


図3 最終審査会での発表「木漏れ灯」(優秀賞)

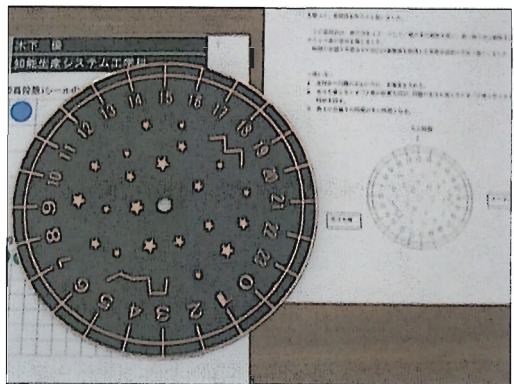


図6 入賞「星時計」

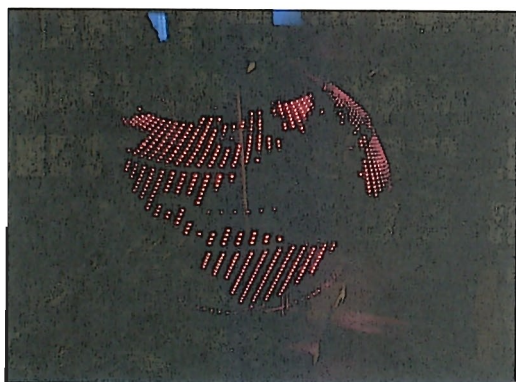


図4 最優秀作品「グルグルアース」

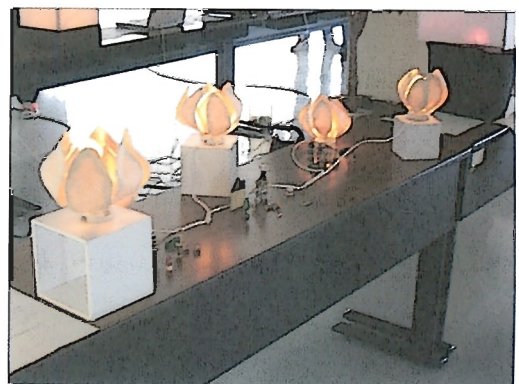


図7 入賞「flower」